

平成三十一年

# 年頭のあいさつ

飯南町長 山崎英樹

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆さまには、ご家族おそろいでお健やかに新年をお迎えのことと、お慶び申し上げます。

昨年中は、町政の推進各般にわたり、温かいご理解とご協力を賜りましたこと、厚くお礼申し上げます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年を振り返ってみますと、7月には、飯南町注連縄企業組合が制作を手がけた、日本最大級といわれる「大しめ縄」が、三笠宮彬子女王殿下のご臨席のもと、町内外の多くの皆さんの協力により立派に完成され、出雲大社神楽殿に奉納されました。

これをご縁に、10月に放映されたNHKの人気番組「鶴瓶の家族に乾杯」で、笑福亭鶴瓶さんとゲストの石田純一さんが、大しめなわ創作館や飯南高校などを訪ねて飯南町を紹介。その反響は大きく、問い合わせや本町を訪れる人も増え、町内外の多くの皆さんから「町の人の笑顔がすてきだった。とても素晴らしいまちですね」と言っていたきました。

本年も「日本一の大しめ縄の里」を切り口に、本町の優れた資源の数々を全国に情報発信し、「住んでよし、訪ねてよし」の魅力あふれる「ふるさとづくり」を進めてまいります。

全国からお出でいただいています。しかし一方では、生まれる赤ちゃんは少なくなっており、本年も、より一層の「定住対策」「若者・子育て世代の支援」を進め、人口減少対策に取り組んでまいります。

昨年の「ねりんピック富山2018ゲートボール交流大会」に、島根県代表として「ついの」チームが出場され、全国から142チームが参加する中で、見事ベスト16に輝かれました。本町の高齢者の皆さんは、元気に趣味を楽しみ、農業や福祉活動など「生涯現役」で活躍されている方がたくさんおられます。本年も「長生き体操」をはじめ、皆で「健康づくり」を進めてまいりたいと思います。また町内の福祉に携わっていただいている皆さまには、担い手が不足する中で、大変ご苦労をお掛けしています。引き続き、担い手確保に努め、保健・医療・福祉・介護が一層連携して「安心な暮らし」ができる仕組みづくりを整えてまいります。

農業においては、昨年10月に開催された「島根中央子牛共進会」で、真木の竹田原護さん、君子さんご夫妻の愛牛が、本町で9年ぶりとなるグラントチャンピオンに輝かれました。畜産振興や鹿児島全共に向けて、万全の準備を進めてまいります。

また新たに、園芸に取り組む企業も立地される予定であり、新規就農者の支援をはじめとして、園芸振興に努めてまいります。水稲については、昨年「大しめ縄」のご縁

昨年、創立70周年を迎

えた飯南高校は、島根県高校総体でハンドボール部が準優勝、バレーボール部がベスト8に輝き、吹奏楽部は全日本吹奏楽コンクール中国大会で2年連続の金賞、報道部はNHK杯全国高校放送コンテストに8年連続で出場し、準々決勝に進むなど活躍しました。また、頓原・赤来両中学校でも、野球部・吹奏楽部をはじめとして活躍しました。

若者の元気は、町の活力です。町の宝である本町の児童・生徒が、将来、本町はもちろん、日本・世界で活躍できるように、保小中高を一体として、学校・家庭・地域・行政がしっかりと手を結び、より一層の「入づくり」を進めてまいります。

このたび、宝島社が発行する「田舎暮らしの本」の「住みたい田舎ランキング」で、「子育て世代が住みたい田舎」10万人以下の市町村」の部で、本町が全国1位にランク付けされました。また、定住や飯南高校魅力化に関する本町への視察は、昨年1年間で27件、北海道から鹿児島県まで、

で、新たに東京の米販売専門店との取引が始まっており、一層の「飯南米」の品質向上と有利販売に努めます。

人口減少・高齢化が進む中で、地域の担い手や農林商工業を担う人材が不足しています。新たな人材確保の研究を進めるとともに、「集落実態調査」を基に、持続できる集落づくりを進めてまいります。そして、来島地区の「小さな拠点」の中心施設である「来島拠点複合施設」を整備します。

また光ケーブルを頓原地域へ整備し、4K8K放送に対応するとともに、本年中ごろに向けて、インターネットの高速化を実施し、SNSへの情報発信やIoTへの対応もスムーズに行えるよう、情報通信網を整備します。

また大きな災害が頻発しています。各自自治組織において、災害対応の取り組みが活発化しており、今後一層の取り組みを期待しています。

本年も、町民みんなの「笑顔があふれるまちづくり」に、そして「飯南町で暮らすことを幸せと実感できるまちづくり」に全力で取り組んでまいりますので、町民の皆さまのご理解とご協力をお願いします。

結びに、皆さまのご健康とご多幸をお祈りし、年頭のあいさついたします。

